令和6年度 脱炭素事業に関する村民説明会【下生野地区】開催要旨

日 時	令和6年6月25日(火) 午後7時00分～午後8時33分 (第1部 村政懇談会：午後7時00分～7時37分) (第2部 脱炭素事業：午後7時37分～8時33分)
場 所	南部交流センター
参加者	26名(村民24名、議員2名)

(第2部 脱炭素事業：午後7時37分～8時33分)

【質問者】

補助事業の施工をするには村内の指定業者登録が必要なようですが、他の市町村ではあまり見られない形態だと思います。村内と村外で区切るのはなぜですか。

【総務課長】

リフォーム補助なども同様ですが、村の公共事業ですので出来るだけ村内業者さんの育成やお金の還元ということを考えております。村内に営業所等を置けば指定業者にはなれますので、ご検討していただければと思います。

【質問者】

他の地区の説明会には参加しないでくださいというお話がありましたが、それだと今日みたいに説明資料が当日配布の場合、質問ができないと思います。

【村長】

以前、他の地区の説明会に参加して質問を繰り返した方がいて、地元の方が質問できないといったクレームがありましたので、第2回からはそのような対応をいたしました。説明資料に関してはなにぶん多岐に渡って検討協議を行ってきましたので、昨日やっと仕上がりました。小立野と下生野の皆さんには遅くなって申し訳ないと思っております。今後はこのようなことがないようにしたいと思います。

【質問者】

契約プランについて、「設備の設置は無料です。」とあるが太陽光パネルと蓄電池も含まれていますか。

【村長】

はい。いくさかてらすが無償で設置いたします。ただ太陽光パネルを設置するのに屋根をお借りしたり敷地をお借りしたり、建物の一部に蓄電池を置かせていただくということはお願いしたいと思います。

【質問者】

100Vから200Vに変圧するときの変圧に関する費用や、その他の関連備品などは個人負担になるのでしょうか。また既存の配管の問題などで設置できない場合もあると聞きました。メリットだけでなくデメリットに関してももっと説明してほしいです。

【エコロミ】

原則としては、全ていくさかてらすが負担し工事を行うことを考えています。しかし個々のご家庭の状況によってはどうしても出来ないことがあるかもしれませんので、平林建設さんの現地調査後に判断をさせていただきたいと思っています。メリットとデメリットについては、太陽光パネルなどが無償という話だけではなく、使った電気はいくさかてらすで電気代として徴収しますという話も併せてご認識させていただきたいです。また、資料の3ページにある「解約について」という項目がデメリットの一つになるかと思います。太陽光発電設備や蓄電池を設置した場合、契約期間内の17年や10年の中でお客様のご都合によって解約される場合は、解約時点で契約年数に応じた違約金をお支払いいただくこととなります。この点は契約の際にご説明をさせていただきます。補償についても、資料に書いてあるとおり、屋根に太陽光パネルを設置した際の施工工事が原因で、雨漏り等の異常が発生した場合は、当然いくさかてらすの方で負担します。さらに設置した後も、太陽光パネルや蓄電池の不具合については、いくさかてらすが責任をもって対応することになります。一方で、台風や大雪といった自然災害等による破損は原則としていくさかてらすが加入する損害保険で補償しますが、故意に石を投げて割ったり、車で突っ込んでしまうなど偶発的な事故だったり、万が一火事を起こしてしまった場合の破損については、ご契約者の責任になる場合もありますのでご注意ください。

【平林建設】

昨年度より委託を受けて調査を進めています。電気料金の設定もでき、興味のある方も増えてきているようですので、村づくり推進室、ゼロカーボン事務局、平林建設までご連絡いただければ、調査についてご説明いたします。

【質問者】

「既に太陽光パネルを設置されている方」という記載について、これは今載っているパネルをいくさかてらすに売却してPCSというものを交換すれば、新しく載せ替える訳ではなくそのまま使えるということでしょうか。

【エコロミ】

一般的に太陽光パネルでできた電気を交流に変える機器をPCSと言って、パワーコンディショナーの略です。その機器が10年程度で保証が切れたり故障が発生したりということが多い場合もあります。その際やはり費用が発生しますので、それらの費用を太陽光パネルの資産価値から差し引いた額で買取りさせていただきます。例えば今お持ちの太陽光パネルが100万円の資産価値とすると、そこからパワーコンディショナーの交換費用等が40万円かかるのであれば、差し引いた60万円で買い取らせていただきます。その後はその太陽光パネルがいくさかてらすの持ち物になりますので、発電した電気をお使いになった分はいくさかてらすに電気代としてお支払いいただくという仕組みになります。

【質問者】

今の太陽光パネルの資産価値からパワーコンディショナー交換代と作業代を差し引くと、価値が残らない場合があると思いますが、そういう調査もしていただけますか。

【エコロミ】

はい。その場合は、いくさかてらすの方で新しい太陽光パネルをつけるというのも一つの選択肢かもしれませんし、ご相談いただければ、こういう方法があるのでどうかというご提案はさせていただこうと思っています。

【質問者】

その場合は今載っているパネルの撤去費用は自己負担でしょうか。

【エコロミ】

いくさかてらすとしての方針は決めておりませんでした。検討したうえでご提案させていただきます。

【質問者】

いつ頃分かりますでしょうか。

【平林建設】

契約条項などが整い次第、検討させていただきまして秋頃お示しできればと思います。

【質問者】

どのような媒体で周知してもらえるのでしょうか。

【エコロミ】

ゼロカーボン事務局のWEBサイトもありますので相談しながら検討したいと思います。また皆様の目に公平に情報が伝わるようにということを心がけたいと思います。

【質問者】

中部電力と同じ電線を使用して供給すると説明がありましたが、いくさかてらすから電気を買いたくない場合はどうすればいいですか。

【副村長】

強制的に契約をお願いしてはいたしませんので、個人のお考えを優先してください。

【質問者】

電気料金のシミュレーションについてですが、村の公共事業なので30～50%安くなると思っていました。今は民間でも格安料金の電力会社はたくさんあると思います。

【村長】

電気料金のプランは無数にあります。今回は大手電力会社のプランを参考に比較しており、生活スタイルによる使用量の想定をもとにシミュレーションを出しましたが、ご家庭の電気の使い方によって金額は変わります。各家庭ごとにシミュレーションを出すのは難しいですが、契約の際にその点はお話しできればと考えております。

【質問者】

今年度、民家の屋根にパネルを付ける軒数が57軒と資料に書いてありますが、それは予算で決まったのでしょうか。また、その軒数が少なくなると野立てパネルは増えるのでしょうか。

【村長】

太陽光パネルを付ける軒数については、昨年度の調査を反映させています。当初は427軒という計画を環境省に出していましたが、昨年度の調査を反映させて、今回は365軒という数値をもとにシミュレーションを出しました。365軒のうちPPAの契約は300軒というシミュレーションを立てておりますが、PPAの契約が減れば野立ては増えてしまいます。逆にPPAの契約が増えて太陽光パネルを付けていただける家が増えれば、野立ては減ります。

【質問者】

この冊子を見ていると電気料金の話ばかりですが、大元の目的は生坂村を電気料金の安い村にすることではないと思います。災害時にも安心というところを情報として載せていただきたいです。知識がないので、蓄電池があると停電のときなどに何日分賄えるかといった具体的な話も載せていただくと、蓄電池の設置に向けて前向きになれると思います。

【村長】

冊子の挨拶文には電気料金がお得ということは書いていないのですが、どうしてもそちらの方に目がいってしまうのが少し残念です。先程も話に出たとおり地球の温暖化を抑制しなければいけませんし、昨年12月のCOP28では2030年までに化石燃料から脱却ということも文書で書かれております。日本も先進国では遅れていますが、2035年から2040年には脱却をしなければいけないなど、色々な計画を策定している中で、生坂村は先駆けて20

30年までに民生部門においてゼロカーボンを達成するという大きな目標にしています。その中でエネルギーを地産地消して、村内で循環できる仕組みも作りたいですし、いくさかてらすである程度収入を得られれば、雇用創出などにも繋がっていくのではないかと考えております。一番は先程言われたとおり、平時の際は環境に優しい再生可能エネルギーで電気を使っていただいて、災害で停電になったら蓄電池を使って普通に生活ができるようなそんな災害に強い村づくりに結びつけていきたいと思っております。次回の『龍と子』には、設置予定の16.6kWhの蓄電池だと4人の家族で何日ぐらい持つのかなど、事例を掲載したいと思っております。

【質問者】

パネルは何枚設置しますか。その規定以下の枚数になることもありますか。

【村長】

基本的には最大18枚です。屋根の形状や載せる場所によってはそれ以下になる場合もあります。

【質問者】

小水力発電の計画される場所はどこに決まったのでしょうか。電力会社との交渉は出来たのでしょうか。

【村づくり推進室長】

東京電力さんの敷地の一角をお借りして発電設備を計画しておりまして、現在の状況は、河川の一角を借りるための河川協議や国への申請を進めているところです。

【質問者】

どの程度まで進んでいるのでしょうか。以前、東京電力さんは大手の会社で契約していると他へ電力を売ることはできないようなことが新聞に出ていました。それが今度東京電力さんは発電設備の敷地をお貸しできるというのは、どういう機序なのでしょうか。そういうことも、皆さんに報告していただいた方がいいと思っております。

【村づくり推進室長】

各事業の進捗状況については、今後『龍と子』を通じてお示ししていきたいと思えます。先ほど東京電力さんの発電設備を借りて、というお話がありましたが、発電設備をお借りするということではなくて、維持放流水ということで、東京電力さんが流しているところの一部の敷地をお借りして、村独自の新たな発電設備を整備するということが計画を進めております。

【質問者】

いくさかてらすが融資を受けられるようになったという情報は今まで発表がなく、突然知らされたように思います。ある程度の協議内容も広報していただきたいです。

【副村長】

融資の関係は慎重に協議をしております。いくさかてらすは株式会社ですので、色々皆さんにお伝えしていくにも役員の上承を得なければいけません。それと融資の予定を事前に皆さんにお知らせして、仮にその後うまく協議が整わなかった場合の混乱を避けるために、そのような慎重になるべき件については、ある程度内容が定まった段階でお知らせしていきたいと思えます。

【質問者】

パネルの設置数が予定より少なければ、補助金が余ってしまうと思えますが、その他でCO2削減の事業に使うことはできませんか。例えばやまなみ荘の断熱化などには使えませんか。

【村長】

それはZEB化といひまして、やまなみ荘のZEB化はとてもハードルが高く、環境省への申請にも当初の計画では入れていませんでした。やまなみ荘ももう築40年位になりまして、鉄骨だと一応60年が耐用年数ですのであと20年ぐらいの中であまりお金をかけないように今回改修をしようと思ひています。エアコンなど省エネ機器の入れ替えや照明のLED化は環境省の補助金でできますが、お風呂や厨房を直すのは過疎債を考へており、今年度詳細設計をする予定で進めていきたいと思ひています。やった事業に対してしか補助金は来ませんので、どうしても事業が縮小すればそれだけの事業しかできず、それ以外は事業ができなければお返しするしかないということでご理解いただきたいと思ひます。

【質問者】

PPA契約というのは何ですか。太陽光パネルを載せた家は、その発電した電気は自家消費せずにくさかてらすに買い取ってもらうのでしょうか。

【エコロミ】

PPAというのは電力の小売契約のことです。いくさかてらすという電力会社が、各ご家庭に太陽光パネルと蓄電池を設置させていただき、各ご家庭はそこで発電された電気のうち使った分だけ電気代としてお支払い下さいという契約がPPA契約になります。一方で、雨の日が続いたり雪が積もったりして太陽光パネルが発電しないときには、資料に電力需給契約と書いてありますがそちらの契約を用いて、いくさかてらすが日本電力卸取引所という電力を取り扱う市場みたいなところから電気を買ってきて各ご家庭に電力をお届けするという電力小売契約の一部となります。

【質問者】

今は中部電力で契約していますが、いくさかてらすと契約したあとの点検などはいくさかてらすで行っていただけるのでしょうか。

【エコロミ】

各ご家庭への引き込みや電線は引き続き中部電力パワーグリッドさんの範囲になりますので、ブレーカーの交換や点検に関しては、中部電力パワーグリッドさんが行うことになります。停電したときの復旧等についても、引き続き中部電力パワーグリッドさんですのでご安心いただければと思います。